

創立者・池田大作先生の

学園建設用地視察より60周年

創価学園の建設に向け、創立者が小平の地を訪問して下さった1960年4月5日より、本年で60周年を迎える。

創立者は建設用地の選定にあたり、“創価の学舎には、最高の教育環境を整えてもらいたい”との恩師の思いを受け、以下の4つの条件を定め、小平の地に創価学園の建設を決意された。

- 一、武蔵野の大地にある
- 一、富士が見える
- 一、近くに清らかな水の流れがある
- 一、都心から車で、1時間ほどの距離である

伸一が、その土地を視察したのは、1960年（昭和35年）の4月5日のことであった。（中略）

その辺り一帯には、くぬぎ林や木蓮、柳、楠、桃の木、菜の花などがあり、大自然の鼓動が聞こえてくるような、心洗われる平和な風景が広がっていた。伸一の考えた、すべての条件を満たしていた。彼は、最高の教育環境であると思った。

「よし、ここだ。ここに学校を建てよう！」

彼は、決断した。

（新・人間革命「栄光」の章より）

この日から学園の設立構想が大きく動き出し、1968年には第1期生を迎える。以来創価学園は、創立者と学園生の黄金の思い出を刻みながら、発展の歴史を築いてきた。

そして栄えある50期生を迎えようとしていた2017年4月5日。創立者は7年ぶりに学園にご帰校下さった——。

創立50周年の4月5日、50期生の入学を間近に控えた小平の東京校を、私は訪れた。この地を、1960年に学園建設の候補地として初めて視察してより、満57年のその日でもあった。

あふれる春の光の中、爛漫の桜花に彩られたキャンパスで首脳と挨拶を交わし、躍動する学園生の息吹を心弾ませ見守った。

（中略）

私がおうれしいことは、心清らかにして聡明な学園生たちが、無数の方々の善意と期待を若き命に鋭敏に刻んで、それにお応えしようと、感謝を力に変えて、勉学に鍛錬に励んでくれていることである。

（創価学園創立50周年誌「発刊に寄せて」より）

創立者がここ小平の地に学園の建設を決めて下さってより60年——師弟の誓いを胸に、学園生の真剣な学びの日々は今日も続いていく。

